

第5章 修了生と上司の方へのヒアリング

第5章 修了生と上司の方へのヒアリング

第1節 ヒアリング調査の概要

全国11の能開大応用課程修了生28名（24社）とその上司の方に応用課程の教育訓練効果と修了生の評価についてヒアリングを実施した。

ヒアリングを実施した企業の業種と採用訓練科別の人数を示す。

	業 種		応用課程採用者数
A社	機械装置製造	a 能開大	H13.3 機械 2、H15.3 機械 2
B社	電気設備機器製造	a 能開大	H13.3 電子 1、H15.3 電子 2
C社	情報システム開発	a 能開大	H13.3 情報 1、H14.3 情報 1
D社	建築設計施工	b 能開大	H14.3 建築 1
E社	情報システム開発	b 能開大	H14.3 情報 2
F社	電子機器製造	b 能開大	H14.3 電子 2
G社	通信・制御設計開発	c 能開大	H14.3 情報 3・電子 1、H15.3 電子 2・情報 1
H社	住宅設計施工販売	c 能開大	H14.3 建築 3
I社	精密金型製造	d 能開大	H13.3 機械 1
J社	鉄骨建築設計施工	d 能開大	H13.3 建築 1
K社	建築材料製造	e 能開大	H14.3 機械 2、H15.3 情報 1
L社	情報システム	e 能開大	H14.3 情報 1
M社	精密機械製造	f 能開大	H13.3 電子 1
N社	情報システム	f 能開大	H13.3 情報 1、H14.3 情報 1、H15.3 情報 1
O社	精密金型製造	g 能開大	H15.3 機械 2
P社	半導体製品製造	g 能開大	H15.3 電子 1
Q社	金型製造	h 能開大	H14.3 機械 1、H15.3 電子 2
R社	建築設計	i 能開大	H15.3 建築 1
S社	電気機器製造	i 能開大	H15.3 電子 3
T社	ガス販売、設備工事	j 能開大	H13.3 機械 1
U社	電気通信設備	j 能開大	H14.3 機械 1
V社	情報システム	j 能開大	H15.3 機械 1
W社	機械加工	k 能開大	H15.3 機械 1
X社	機械装置設計改造	k 能開大	H15.3 電子 1

応用課程採用者数に示す標記は、機械：生産機械システム技術科、電子：生産電子システム技術科、情報：生産情報システム技術科、建築：建築施工システム技術科を表す。

第2節 ヒアリングのまとめ

修了生及びその上司の方に直接話を伺うことによって、応用課程教育の訓練効果、応用課程教育の改善、応用課程修了生の評価、要望など生の声を得ることができた。

ここに、主な意見を述べる。なお、詳細については巻末に資料を掲載している。

< 応用課程教育の訓練効果 >

応用課程の教育で言われなくても先に動けるようになった。

専門が違う中でコミュニケーションを取ってまとめ上げたのが役に立っている。

実際ものを作ったことによって施工するときの難しさとか、どこを管理すればちゃんとしたものができるのだということを学んだのが一番良かったと思います。

設備の問題点に対する見方が変わってきた。問題を分析する力が身についた。

競争心を培いながらチーム内で個々の責任を果たし、お互いに助け合うことを学んだ。

会社に入って自分で調べて問題を解決する方法、そこらへんは学生時になれていたのですんなりできた。応用力、情報収集、問題解決能力だと思う。

< 応用課程教育の改善 >

会社ではものを作るのは同じであるが、ものの完成度にギャップを感じた。ものが動くだけではダメ、納期、スケジュール、計画に対する実績が必要。

ワーキンググループではやる人、やらない人の対策をきちんと講じる必要があるのではないかと。成績の判定基準があいまい。

プログラムの実践的な組み方。企業の開発のための記述の仕方を教えて欲しかった。

< 応用課程修了生の評価 >

言葉とものが一致している。勉強だけではない、実際のものを扱っている。現場を知っているから自分の言葉で説明できる。

自分のやりたいこと目的をもっており、ベースがしっかりしており実践力がある。

言ったことは理解してくれます。開発の品質を大事にしています。作ったものに対する品質は普通より優れている。

実際に物を作った経験がありますので製造のことをある程度考えて設計している。

最初の1年は予想以上に良かった(人の倍のスピードで成長した)。機械加工については専門課程での経験があり、理解力がある。一人立ちのペースが専門課程よりも早い。

仕事のみこみは早い。現場での応用が効く。仕事を与えて過程を判断して実行できる。

< 要望 >

コミュニケーション、しゃべる力、文章力、物事を人に伝える能力が必要。

広く浅くいろいろな言語をやっているようですが、1つだけでも深くやっていたら応用が利くと思います。

テーマを自分なりに噛み砕いて、行動力のある人、自分の役割を認識できること。開発業務では品質の高い物を要求されるので、応用課程の学習でもそのあたりを教育していただきたい。

基本的な工学の常識（物理、化学など）を習得して欲しい。各分野で最低限知っておかなければならない技術・知識をきちんと教えて欲しい。

品質に対する自信、厳しさを教えてほしい。納期、コスト、残業するのもコスト。

基本動作（挨拶） 報連相（報告、連絡、相談）の習得はすべての学生に必要。

ヒューマンスキルをもっと大学で教えて欲しい。ドキュメンテーション能力、コミュニケーション能力の習得も更に必要。

